

富里市地域公共交通計画に掲げる12の柱事業の進捗状況について

資料4

〈令和4年4月から令和5年3月までの事業の進捗状況について下表に示す〉

A：実施済み B：着手 C：未着手

目指すべき姿	No.	事業	事業の概要	事業の進捗	現在の状況	今後の展開
【目指すべき姿1】 地域全体を見渡し、市民のニーズにマッチした、富里市に合った最適な公共交通を目指す	1	民間バスの路線維持・拡充	周辺都市への連絡及び市内の骨格となる路線バスについて、引き続き路線の維持・拡充を図る。	A	○新型コロナウイルス感染症地方創生臨時交付金を活用し、公共交通事業者支援金を交付 ○末廣農場への路線バス及び高速バス乗入れの実現	○新デマンド交通の利用実態データや各種アンケート調査データを基に、新規路線等の協議を公共交通事業者と実施予定
	2	さとバスの見直し	市民のニーズ調査結果を踏まえ、新たなデマンド交通に転換する。	A	○令和4年10月1日新デマンド交通へ転換	○令和5年度入札による売り払いを実施
	3	デマンド交通の拡充	利便性の向上を目指し、乗降ポイントの増設や運行エリアの拡大などの拡充を図る。また、高齢者に優しい地域交通を目指し、ドア・ツー・ドア方式について実証運行による検証を行う。	A	○令和4年10月1日新デマンド交通運行開始	○持続可能な公共交通の実現のため、ドア・ツー・ドア方式の利用者数の推移・利用実態・ニーズ調査、費用対効果等の検証を行う。
	4	交通ネットワークの強化	民間路線バス、タクシー、デマンド交通などの接続ポイントとして、市役所等を交通結節としての機能強化を図り、一体的な公共交通ネットワークの形成による利便性の向上を図る。	B	○新デマンド交通の運行データ等を検証中	○市役所等の結節点強化の必要性について整理する。
	5	福祉移送サービスの充実	移送サービスや福祉タクシー料金助成が実施されているが、利用条件が限定されているため、条件緩和を検討するなど、公共交通と福祉サービスの連携を図る。	C	○移送サービスについては、社会福祉協議会への委託に加え、民間事業者による福祉有償運送サービスも運行している。 ○福祉タクシー料金助成については、令和4年度利用件数は1,556人、利用人数は455人。令和5年3月末日現在の指定タクシー事業所数は、全体で40事業所（市内4・市外36）	○移送サービスについては、現在運行中の福祉有償運送サービスに加え、地域資源を活用した外出支援策について検討する。 ○福祉タクシー料金助成については、対象者の増加に対して、指定事業者数が横ばいとなっているため、より一層の事業の周知を行う。
	6	スクールバスの見直し	小学校統廃合に伴うスクールバスの運行を継続するとともに、登下校時間帯以外の空き時間の活用方法や混乗の可能性等について検討する。	C	○統合校の富里南小学校を起点及び終点として、登下校の時間帯のみ業務委託により運行している。現在、乗車定員に余裕がないため、市民は混乗しない児童専用として運行している。	○民間バスの路線の設定がないため、スクールバスの運行を継続していく。今後、民間路線バスが普及する場合は、そのバスを児童が優先的に利用できる補助制度等を検討する。
	7	成田空港へのアクセス	成田空港の機能強化に伴い、その効果をまちづくりにも活かすべく、空港利用者、勤務者等の交通手段の確保を目的とし、広域交通手段として空港へのアクセス方法を検討する。	B	○日本大学理工学部交通システム工学科と共同で市民アンケート調査を実施	○アンケート調査結果を基に、事業主体等の調査を行う。
【目指すべき姿2】 地域参加による、地域が自らデザインする持続可能な公共交通を目指す	8	地域主体による新たな公共交通の導入に向けた取組	地域の共助による自家用有償運送事業等の検討を行う。	B	○日吉台地区へのグリーンスローモビリティ導入に向け、「ひよし地区ささえあい協議体」との協議・住民アンケートを実施	○アンケート結果等から、グリーンスローモビリティにこだわらず、別の方法も含めた新たな公共交通の導入について引き続き検討する。
	9	交通事業者と連携した新たな交通システムの展開	デマンド交通の予約を解消することを目的に、乗合タクシー事業※を検討する。 ※決まった時間にタクシーが団地に停留しており、電話等の予約なしで利用可能なタクシー。	C	○実施方法等について調査・研究中	○市内タクシー事業者と協議を行う。
	10	富里市独自のモビリティサービスの検討	新たな移動システムであるグリーンスローモビリティ等を活用した地域主体の取組を検討する。高速バスの空いた荷物スペースを活用し、市の特産品を都市部に運搬することで、生産者の販路拡大やバス事業者の収益確保を図る。	B	○日吉台地区へのグリーンスローモビリティ導入に向け、「ひよし地区ささえあい協議体」との協議・住民アンケートを実施 ○庁内組織である「富里市地域公共交通に関する研究会」において、グリーンスローモビリティの導入及び貨客混載事業について研究を行った。	○アンケート結果等から、グリーンスローモビリティにこだわらず、別の方法も含めた新たな公共交通の導入について引き続き検討する。 ○貨客混載事業については、引き続き「地域公共交通に関する研究会」において研究を継続する。
【目指すべき姿3】 公共交通への市民の理解や関心を高める仕組みの構築を目指す	11	利用促進のための意識醸成	公共交通を日常的な交通手段の選択肢としてもらうために、利用促進に向けた取組を進める。	B	○日本大学理工学部交通システム工学科の学生により、デマンド交通のロゴマーク・停留所掲示物を作成 ○市内小・中学生から募集したデマンド交通の愛称を、応募293点の中から「キャロリン号」に決定	○日本大学理工学部交通システム工学科の協力による公共交通マップの作成
	12	モビリティマネジメントの実施	バスの乗り方教室や出前講座の実施など、交通事業者や市民と協働して、地域に公共交通利用の大切さを普及する活動を展開する。	B	○デマンド交通の地区説明会を開催（19団体：400人）	○交通事業者と協議し、市内小・中学校の児童・生徒を対象に公共交通乗り方教室の実施を検討